

平成30年度指定管理者制度活用事業 評価シート(こども文化センター)

1. 基本事項

施設名称	幸区第2グループ(南加瀬・小倉・北加瀬)	評価対象年度	平成30年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日～平成31年3月31日	所管課	こども未来局 青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	1 南加瀬こども文化センター ①年間延べ利用者数	H29 26,839人	H30 23,156人	②年間延べ利用団体数	H29 533団体	H30 334団体
	2 南加瀬小学校わくわくプラザ ①登録者数	237人	235人	②年間延べ利用者数	12,787人	11,375人
	3 夢見ヶ崎小学校わくわくプラザ ①登録者数	163人	189人	②年間延べ利用者数	13,725人	16,107人
	1 小倉こども文化センター ①年間延べ利用者数	30,696人	31,292人	②年間延べ利用団体数	252団体	241団体
収支実績	2 小倉小学校わくわくプラザ ①登録者数	267人	295人	②年間延べ利用者数	16,835人	20,922人
	3 東小倉小学校わくわくプラザ ①登録者数	256人	277人	②年間延べ利用者数	21,150人	24,699人
	1 北加瀬こども文化センター ①年間延べ利用者数	29,391人	28,599人	②年間延べ利用団体数	144団体	94団体
	2 日吉小学校わくわくプラザ ①登録者数	569人	548人	②年間延べ利用者数	35,467人	37,006人
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、館の活動や運営に反映した。また、事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など、地域を越えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施した。					
	単位:円					
	1 収入 指定管理料	148,420,068				
サービス向上の取組	2 支出 人件費	121,909,712				
	管理費	10,088,085				
	事務経費	6,967,202				
	その他経費	8,092,216				
	合計	147,057,215				
	3 差引	1,362,853				

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	「仕様書」を遵守して適切な事業の実施がなされているか。	10	4	8
		「事業計画」に基づき、着実な事業の推進がなされているか。			
		「こども文化センター」の運営をすることにより、児童の健全な育成が図られているか。			
		「わくわくプラザ事業」を実施することにより、放課後児童の健全育成が図られているか。			
(評価の理由) ・仕様書・事業計画に基づき、こども文化センター及びわくわくプラザ事業を適正に実施した。 ・小倉こども文化センターでは、小学生や乳幼児親子を対象に仮装し高齢者福祉施設を訪ねる「ハロウィンでつながろう！」を実施。楽しい雰囲気作りのためにハロウィンの仮装の衣装やステッキ、バッグ作りもトータル行事として組み込み、また安全の確保と体面でも無理のない開催時間、参加時間について工夫し、多世代交流に繋がった。 ・北加瀬こども文化センターでは、「こどもえんにち」での子ども委員の募集の際に、たよりに周知だけでなく、頻りに来館している小学生達に直接声掛けもしたところ、子ども実行委員が昨年の8名から20名に増加した。集まった子ども委員の発案で毎月財団が実施している「こんちゃれ」を集めたこんちゃれアースを実施する等の取組の結果、事業自体も小学生を中心に前年度40%増の538人が参加した。 ・こうした取組の結果、グループ全体として小学生の年間利用者数が昨年度より1,117人増加した。 ・その他の取組として、日吉小学校わくわくプラザでは、新たに館長及び職員が「日吉老人いごの家まつり」運営会議に定期参加したところ、わくわくプラザに通う子ども達がまつり当日に参加し、近隣の障害者施設が作成したお菓子等の販売を自主的に手伝うなど、まつりに参加した近隣住民との交流に繋がった。また、南加瀬こども文化センターでは、新たな事業として「はぐらの七日間勉強」と称し、2月の試験期間中の学習室を中学生専用試験勉強スペースとした。参加者にスタンプカードを渡す工夫をしたところ、中学生の来館者の増加や勉強を通じた中高生の交流に繋がったため、定期試験毎に定例実施している。					
サービス向上及び業務改善	利用者ニーズ	サービス向上のために、利用者等の意見を適切に把握しているか。	10	3	6
		利用ニーズを把握し、事業実施に適切に反映しているか。			
		苦情対応など、利用者への適切な対応が図られているか。			
	特別な配慮を要する利用者への対応	特別な配慮を要する利用者への対応が適切になされているか。	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業の実施にあたり、学校及び行政機関、地域の団体等との連携がなされているか。	10	4	8
	施設・事業の広報	施設を知ってもらい、事業の充実を図るための周知の活動等に取り組んでいるか。	5	3	3
	運営協議会の実施	「こども文化センター運営協議会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3
保護者懇談会の実施	「わくわくプラザ保護者懇談会」が適切に運営・開催されているか。	5	3	3	
(評価の理由) ・利用者ニーズについて、意見箱の活用や利用者アンケート、子ども運営会議等を通して、利用者ニーズ把握に努めたほか、苦情等への対応も適切に行われている。 ・特別な配慮を要する児童への対応として、「特別な支援を必要とする子への対応研修」等により、職員の資質向上を図るなど、適切な対応が図られている。 ・学校及び行政機関との連携については、子ども会や近隣保育園等と連携し、多様な事業を実施している。特に、新たに橋高校吹奏楽部及び中原区のグループと連携し、グループ合同事業として橋高校にて「ふれあいコンサート」を開催し、情操教育に寄与するとともに小学生と高校生との世代や地域を超えた交流を促進した。 ・施設・事業の広報については、ホームページやおたより等多様な媒体を用いて広報を行っている。また、中学生・高校生たよりや乳幼児親子向けたよりを発行するなど、対象年齢を捉えた広報を行った。小倉こども文化センターでは、幸区役所から送付される食育コラムをたよりに掲載している。 ・運営協議会の実施について、運営協議会が設置され、事業計画どおりに開催されている。 ・保護者懇談会の実施について、懇談会が定期的開催され、保護者の要望を把握している。					

組織管理体制	適正な人員配置	「児童福祉施設の設置及び運営の基準に関する条例」第54条に基づく職員配置がなされているか。	10	3	6
		「仕様書」において定める職員配置の最低基準が順守されているか。			
		「川崎市公契約条例」が遵守されているか。			
	職員の研修体制	職員の資質向上のために必要な研修が実施されているか。	10	4	8
職員が研修に参加しやすい仕組みづくりがなされているか。					
個人情報等の取扱	法人として、個人情報保護に関する規定や体制を整備しており、適正に取り組んでいるか。	5	3	3	
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 適正な人員配置については、子ども文化センター及びわくわくプラザにおいて、仕様書・事業計画に基づき、適正な配置がされている。 職員の研修体制については、館内会議やスタッフ会議等において、研修を受講した職員がその知識を共有しているほか、研修資料やレポートをファイル等に一元化して管理し、職員が閲覧できる等、共有化の仕組み作りができています。さらに、特別な配慮を要する児童への対応について、わくわくプラザごとに巡回相談員による研修を実施するなど、グループや施設の実情に応じた研修を行い職員の資質向上を図っている。 個人情報の取扱については、法人において定めている、個人情報保護方針及び取扱規定に基づいて、個人情報は鍵のかかる保管庫に保管されている。また個人情報の漏洩の事実はなかった。 					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な施設利用のため、施設や設備の保守・点検を適切に行っているか。	5	4	4
		必要に応じて適切な維持・補修がなされているか。			
		備品等の管理が適切になされているか。			
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保するための体制が整っているか。	5	3	3
		事故等が発生した場合に迅速かつ適切な対応が図られているか。			
		事故防止や感染症予防対策等が事前に図られているか。			
防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯対策に工夫がなされているか。	5	3	3	
	災害発生時に備えた対応が図られているか。				
	災害発生時に適切な対応・行動ができる取組がなされているか。				
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・設備の保守管理については、子ども文化センター・わくわくプラザ共に、施設・設備の保守点検を日常的に行い、補修が必要な場合は適宜、工事等実施している。特に東小倉小学校わくわくプラザでは、保護者懇談会出席確認にあわせて実施したアンケートでの要望から、上履き入れを整備したことにより利用者が体育館等へ移動しやすくなった。 利用者の安全確保については、法人作成の各種マニュアルに沿って、事故対応や衛生管理等を適切に行うとともに、各事例の館長会議での共有及び各館での事例検討会の開催によって議論を重ね、職員等の意識向上を図っている。 防犯対策及び災害時の対応として、法人作成の「不審者対応マニュアル」や、館ごとに作成している「災害時対応マニュアル」に基づき、災害備蓄品の常備や消防訓練、避難訓練の実施等、防災体制の強化に取り組んでいる。特に、南加瀬子ども文化センターでは、新たに「みんなで『いざ防災！』』というイベントを実施し、防災クイズや非常食の試食等を行った。 					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	法人の規定等に沿った適切な会計処理と金銭管理がなされているか。	5	3	3
		「事業計画」に沿った適切な支出がなされているか。			
	効率的・効果的な支出	効率的な執行に努め、経費削減に具体的に取り組んでいるか。	5	3	3
		支出に見合う効果が効果が得られており、サービス水準も確保されているか。			
<p>(評価の理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> 金銭管理・会計手続については、適正に行われている。 受託20グループ52施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、警備等業務委託の一括契約、消耗品や備品の一括購入等の取組により、効率的・効果的な経費の支出がなされている。 					

4. 総合評価

評価点合計	67	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

市内20グループの子ども文化センター及びわくわくプラザの指定管理を行うスケールメリットを活かし、効率的・効果的な事業運営を行っている他、全館・全区合同事業の実施、経験や役割に応じた計画的な研修実施によって職員の資質向上を図り、また研修内容・事故状況等の情報を全館で共有するなどにより、安定的で良質なサービス提供を行っている。

また、普段からの声掛けを事業内の子ども委員募集に活かすなど、新たな創意工夫に積極的に務めているとともに、日吉老人いこいの家まつりに子ども達とともに積極的に参加するなど地域に根差した取組を行っている。さらに、保護者懇談会事前アンケートでの意見を反映して施設設備を充実させるなど、市民サービスの向上に努めている。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

今後も、地域社会全体で子どもを見守り育てる、安全・安心な居場所となるよう、環境整備や職員のスキル向上に努め、学校、行政、地域の各団体が共に連携しながら地域づくりを進めることで、職員と子どもの顔の見える関係を築き、小中高生から高齢者まで、多世代にとって、居心地のよい場となるよう努めること。また、より効果的な広報を行うために、対象年齢を捉えた広報について工夫をこらすなど、さらなる積極的な取組が望まれる。